

## 学校の在り方地区検討委員会（上北地区）

### 【第4回】概要

日時：令和8年5月18日（月）

9：30～12：00

場所：ホテルグランヒルつたや

1階オーナーズルーム

#### <出席者>

櫻田委員、丸井委員、奈良岡委員、瀧口委員、森田委員、成田委員、松林委員、泉委員、米沢委員、小原委員、盛田委員、齊下委員、志村委員、小森委員（進行役）

#### 1 開会

#### 2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

参考：学校配置シミュレーション

ア：職業学科を除く高校の学級減で対応した場合

イ：職業学科の精選と普通科の高校の学級減で対応した場合

ウ：百石高校を除く高校の学級減で対応した場合

エ：職業学科の維持と普通科の高校の学級減で対応した場合

#### 3 意見交換

##### （1）学校の在り方に関する主な意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

##### （2）全日制課程の学校規模・配置について

###### ① 学校配置シミュレーション

###### ◇ ア～エの案に関する意見

- おいらせ町の子ども数が10年間維持されること、おいらせ町立百石小学校の児童数が300名を超えていること、百石高校普通科の入学者数が40名を超えていることを踏まえ、同校の学級数を維持するべき。
- 中学校の進路指導の状況を踏まえると、普通科を優先的に学級減することに違和感がある。
- 三沢高校は現在6学級規模だが、現行計画で5学級となり、前期実施計画で学級減を行った場合、短期間で4学級規模となることから、中学生の進路に影響

響を与える。また、三沢市に近いおいらせ町立木ノ下中学校では生徒数が減少しないことを考慮してほしい。

- 三本木高校には優れた進学実績がある。1学級減により進学校としてのブランド力低下につながる懸念がある。
- 三本木農業恵拓高校について、普通科は5年間の平均倍率が1倍を超えているほか、統合したばかりであることを踏まえ、学級数を維持してほしい。
- 十和田工業高校は就職率が高く、地域にとって重要な高校である。
- 各市町村における人口減少の状況、中学生の進学先の人数の割合等のデータに基づいた議論が必要である。
- 学級減ではなく、少人数学級編制の実施で対応すべき。
- 中学生のニーズを踏まえ、5年間の平均倍率が1倍を超えている学科の学級減は避けるべき。
- 三本木農業恵拓高校普通科については、十和田西高校の観光の学びを引き継ぐなど、特色ある教育活動を行っていることや、これまでの高校再編の経緯、中学生のニーズを踏まえ、学級数を維持してほしい。
- 職業学科の学校規模については、地区全体の視点で検討する必要がある。
- 将来的な公共交通機関の状況を見込んだ場合、ある特定の市町村だけの学級減ではなく、地区全体で対応する必要がある。
- 後期実施計画期間には中学校卒業予定者数が大幅に減少することから、対策を考えておく必要がある。
- 十和田市に普通科が8学級もあるのは多いことから学級減を実施すべき。
- 同じ上北地区でも、鉄道等により三八地区の高校へ通学しやすいが、十和田市の高校への通学は不便なところもある。広域な上北地区を一括りで議論するのではなく、市町村ごとの地理的状況を踏まえた議論が必要である。
- おいらせ町から三八地区の高校に通いやすい場所だからといって、百石高校の学級減をしても良いという訳ではない。
- 十和田市は他と比べて地元高校に進学するというデータがあり、十和田市内

高校の学級を減じる意見には賛同できない。地区全体で公平に考えるべき。

- 三沢商業高校については、入学者数も安定的に確保しているほか、卒業者の進路も進学と就職のバランスが取れている。このような中、学級減により、希望する生徒が入学できなくなるとともに、商業の学びの機会が失われる懸念がある。
- 学科を維持する観点から、1学科1学級となっている学科については学級減を避けるべき。
- 普通科の学級減について、地元市町村からの入学者数を参考に判断するべきである。
- 百石高校の教育活動に対して、おいらせ町から財政的支援を行っていることを考慮してほしい。
- 教育内容が画一的な状態が続くのであれば、普通科から学級減する必要がある。また、同じ学力層の生徒を集める観点からは、学級減を行った方が良い。
- 総合学科は地区に必要な学科であるため、学級減となっても学科の学びを維持できる教員数を維持してほしい。
- 5学級減に対応するためには、特定の学科のみを対象とするのではなく、総合的な視点での検討が必要である。
- 様々な視点で検討するため、4案すべて記載してはどうか。

進行役から、ア～エの案を報告書へ掲載することを委員へ投げかけたところ承認された。

## ② シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見

- 学びの内容をイメージできない学科については、こどもに勧めることができない。普通科との本質的な違いを説明できないのであれば、未来デザイン科の設置には反対である。
- 資料1の7ページに「未来デザイン科は六ヶ所高校や野辺地高校への設置が考えられる」とあるが、設置を希望しているわけではないため、誤解のない表現にしてほしい。
- 未来デザイン科について、中学生に選ばれるようにするためには、説明会の実施等により中学生やその保護者に丁寧に説明する必要がある。

- 未来デザイン科について、卒業後の進路等が保護者や中学校の教員に理解されなければ失敗してしまう。

### (3) 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

### (4) その他の意見

- 職業学科を有する高校から大学等に進学する生徒も多い。職業教育という限定的な考え方ではなく、専門科目を生かして進学する生徒がいる事実も考慮すべき。
- 横浜町では、地理的状況を考慮し、生徒に対して交通費や下宿代等の補助を行っている。今後、高校の再編を進めるに当たっては、県として通学支援を検討してほしい。
- 資料1の8ページに「通学支援を実施する場合には、行政、学校、地域等が一体となって取り組む必要がある」とあるが、県の関わりが薄いと感ずるため、「県をはじめ」や「県はもちろん」等の文言を追加してほしい。
- 生徒が交通費の都合で高校を退学することがないように、県や市町村で通学支援を検討してほしい。

本日の意見交換を踏まえ報告書を整理し、委員へ書面で確認した後、最終的な確認は進行役一任とすることで委員から承認された。

### (5) 報告書以外について

- 前期実施計計画の策定に向けたスケジュールについて説明いただきたい。  
→ (事務局) 前期実施計画については令和8年11月頃の策定を目指しているが、その数か月前には本検討委員会の報告書を踏まえた前期実施計画(案)を公表し、第5回会議で内容を確認していただく。

## 4 閉会